



建学の精神

聖望学園の教育はキリスト教主義教育をとおりて神を敬い人を愛し、正義を重んじ信仰にたつ人間の形成を目的とする(敬愛信義)。



聖望学園 校章・マーク
マルチン・ルーテルの紋章を元にし、救い主としてのバラの花、十字架、生徒と教職員
の心が結ばれることを象徴しています。

学校法人 聖望学園

〒357-0006 埼玉県飯能市中山292

TEL : 042-973-1500 FAX : 042-973-6541



創立

埼玉県飯能の地に須田甚作校長によって寿多館蚕業伝習所が1903年(明治36)に開所され、地場産業の基幹である養蚕業の技術向上と、地域の育英教育に貢献しました。

1918年(大正7)、認可を受けて私立寿多館蚕業学校として開校。のちに飯能実業学校と改称し、学校は順調に発展していきましたが、戦後の教育改革の影響を受け経営が困難になりました。1951年(昭和26)4月、日基教団飯能教会の藤原政太郎牧師が、キリスト教主義学校として校名を(聖望学園)と改称して経営を引き継ぎ、苦心と努力が重ねられましたが、その財政難を解消することは不可能であることがわかりました。

そのころ、アメリカ・ルーテル教会ポール・クライリング宣教師が飯能で牧会を始めました。藤原はクライリングに経過と事情を話したところ、日本で牧会している宣教師団がこの事情を受け止め、アメリカ・ルーテル教会本部と交渉、協議してくれました。その結果、半年後の10月、学園の教育と経営の責任をアメリカのミズリー派ルーテル教会ミッションボードが持つことが決まり、クライリングが飯能ルーテル教会牧師と初代校長を兼務し、聖望学園は再出発しました。

こうした経緯から、聖望学園の真の意味における出発は、1951年(昭和26)10月、クライリングを校長に迎えたときからとっていいでしょう。

1953年(昭和28)クライリングが帰国することになり、後任としてロバート・パウロ・ヌーヤーが第2代理事長兼校長として就任しましたが、夫人の病気のために1年という短い在任期間で帰国しました。



初代校長 ポール・クライリング
飯能ルーテル教会初代宣教師。



創立の背景と歴史

聖望学園は、前述のような経緯で再出発します。この再建にあたっては、飯能ルーテル教会が大きな役割を果たしました。

日本は1945年(昭和20)8月15日敗戦を迎え、直ちにアメリカは我が国に進駐し、占領政策をとるようになり、小さな町、飯能にもアメリカ兵の小部隊が駐屯しました。ある日、一人の兵士、ギルバート・シーヴィングと昭和薬局店主 神田邦武が町役場で偶然に出会い、その後二人の間に親交が生まれ、昭和薬局の2階で聖書研究会が始まりました。飯能ルーテル教会の誕生は、これがきっかけとなりました。

シーヴィングは、アメリカ・ミズリー派ルーテル教会の熱心な教会員でした。敗戦によって精神的支えや力を失っている日本人々に、クリスチャンとして自分のできることは何かと考へ、故国の父母に自分の気持ちを伝え、相談しました。すると、息子の思いに応えた父母から献金が送られてきました。教会の建物は、1950年(昭和25)そのお金を基に本町一丁目に土地と家屋を購入し、建設されたものです。

しかし教会は、建物だけでは成り立ちません。牧師が必要です。当時、中国で共産革命が起こったために、中国で伝道していた宣教師は国外追放となりました。ルーテル教会の宣教師たちはアメリカへの帰途、日本に立ち寄りました。その内の一人であったクライリングは、飯能で教会が始まることを伝え聞き、飯能に通うことになりました。

クライリングは日本語が話せませんでしたが、県立飯能高校の英語教師であった沢田英彦が、クライリングの通訳として奉仕してくれることになりました(第3代校長に就任)。

再出発したころには木造校舎が古くなり、修繕も困難な状態でしたが、学園独自で改築する資金力はまだありませんでした。初代宗主任(チャプレン)のアルバート・カロー宣教師が夏期休暇で帰国した際に、聖望学園が新校舎支援を必要としていることを各教会で説明したところ、1959年(昭和34)アメリカ・ルーテル婦人連盟(Lutheran Women's Missionary League: 通称LWML)の会議で6万ドル(当時の日本円で約2160万円)の献金が承認されました。この献金により、1961年(昭和36)4月、鉄筋コンクリート3階建9教室の新校舎が落成しました。また、礼拝堂は、飯能実業学校時代の振武殿(講堂)を使用してきましたが、1972年(昭和47)3月LWMLからの献金を基金として、新礼拝堂を落成することができました。

LWMLからの貴い献金は一部の資産家が寄付したものでなく、教会員である家庭の主婦が商店に食料品などを買いに行った折りに、その釣銭を自分の台所に掛けてある小袋に入れ、それを教会に持ち寄って集められたお金です。

聖望学園は、アメリカ・ルーテル教会をはじめ、内外の大勢の人々からの支援や協力が寄せられましたが、その中でもLWMLからの貴い献金は、忘れることができません。

2011年(平成23)10月に聖望学園は60周年記念を迎えます。また、2018年(平成30)4月には前身校、飯能実業学校・聖望学園創立100周年を迎えます。